

日本經濟新聞

東京 2025.6.19

信越 2025.6.20

地域の風



廃校の教室を使った「学校蔵の特別授業」は11回目（14日、新潟県佐渡市）

創業家の女性と結婚して後を継いだ経営者が佐渡島（新潟県佐渡市）で語り合った。廃校の木造校舎を利用した尾畠酒造（同）の「学校蔵」で14日に開かれた特別授業。10代から70代まで70人を超す生徒が、校訓にある「幸醸心（こうじようしん）」を刺激された。「ウチとソト混ざる」と変わるニッポンの未来」が全体テーマ。「企業による地域づくりのほとんどはファミリービジネスが実践している。伝統とイノベーションをつなげられるのが婿養子」とオンライン講演した慶應大学の飯盛義徳教授に続き、3人の社長が「ムコ学」の講師となつた。うどんすきの老舗、美々卯（大阪市）の江口公浩社長（48）は「（先代とのあつれきは）いっぱいあるが、それでも『違うでしょ』と変えていく

役割がある。外から来たから「気つきやすい」と話しあり、「社長になれてよかつたでしょ」と言われて、「継いでくれてありがとう」とは言わない」と会場の笑いを誘つた。

「コエドビル」製造

ある女性が（夫の家業の

（埼玉県川越市）の朝霧

重治社長（52）は「今は

「アーティス

ムコ経営者、佐渡で語る

「最初は奥さんだけが唯一の味方」と振り返ったのは、出版業界から転じた尾畠酒造の平島健社長（60）。「（異なる価値観などが）混ざると強くなる。ウチは次もムコです」と長女の夫が入社したことでも紹介した。2014年に始まった学校蔵の特別授業は、平島社長の妻で創業家に生まれた尾畠留美子専務（59）が、ほぼポケットマネーで開催してきた。

現地集合・解散で参加無料。会社は年商5億円に達する日本総合研究所の藻谷浩介主席研究員（61）は「人間が混ざって面白いことが起きるのが学校蔵。例年は半分くらいの初参加が6割を超えたのがうれしい」と喜んだ。

「日本で一番夕日がきれいな小学校」と評判だった旧西三川小にできた学校蔵。校庭には2010年まで136年の歴史があったことを伝える記念碑が残る。夏草が覆う背後に刻まれた校歌の1番、2番は「平和日本をつくるのだ」「文化日本をきずくのだ」と結ばれていた。離島の片隅の大島の化学反応が面白くなり志は学校蔵に継承されている。（天野豊文）

「最も予想した。

高校生の北見結愛さん

（17）は、自分の言葉で

語る講師をみて「自分も

物事をよく考えて、アワ

トプットできるようにな

りたい」と感じたという。